

特集

若山楮で和紙作り！^{こうそ} ^{みつまた}拳ノ川小学校の児童が地元の伝統産業を学習しました

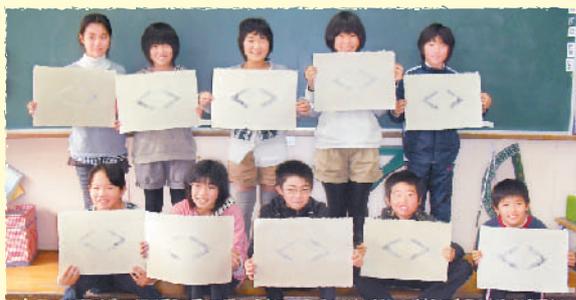
旧佐賀町では、明治時代から昭和中期にかけて、楮や三椏が主要特産物でした。良質な佐賀楮の中でも、拳ノ川原産の「若山楮」は当時、日本一の品質を誇ったといわれています。

今年度、拳ノ川小学校の5・6年生が、総合学習でこの若山楮をテーマに学習しました。

児童らは、黒潮町佐賀北部地域協議会※の皆さんにご協力いただき、楮の栽培から紙漉きまで、一連の作業を体験しました。「通学路にも楮が生えていると知ってびっくりした」「最初は難しかったけど、楽しかった」「また紙漉きをしてみたい」など、日本一の若山楮について楽しみながら学んでいました。

※同協議会の取り組みは、役場ホームページ(<http://www.town.kuroshio.lg.jp/fuukei/kami/index.html>)をご覧ください。

⑦ 紙を干したら、完成！



自分で漉いた和紙が、6年生の卒業証書になります。
(佐賀小・伊与喜小でも卒業証書づくりを行いました。)

① 4月25日 若山楮の授業



黒潮町在住の紙漉き職人・中嶋久実子さん(和紙ハレハレ本舗)に、楮の栽培や紙漉きの1年間の行程を教わりました。

② 9月10日 芽かき・つる取り



楮畑での作業。楮が太く1本の枝に育つように、脇芽(不必要な芽)を摘み、巻きついたつるなどを取ります。

⑥ 2月2日 ちりとり・紙漉き



大釜で煮てあく抜きした楮の繊維から、残っている黒皮やちりを取り、繊維を木の台の上でたたいて細かくします。

繊維をフネ(木の水槽)の中に入れ、校章の模様が入った型枠で漉きます。



③ 12月11日 楮の収穫



楮の葉が落ちたら刈り取り作業。根元で切った楮は、同じ太さにそろえて束ねます。

⑤ 1月12日 へぐり(黒皮剥ぎ)

専用のナイフを使って、蒸し剥ぎした楮の皮の黒い部分を剥いで白い部分と分けます。白皮は白い紙になり、黒皮を混ぜて使うと黒っぽい紙になります。



小学校のプールで水にさらし、白くします。

④ 12月18日 蒸し剥ぎ



釜で蒸した楮の皮を剥ぎます。この日はイベントがあり、佐賀小・伊与喜小と合同で行いました。